

もうすぐ東日本大震災から1年。被災した子どもたちに本を贈る『いっしょだよ』キャンペーンは、先日の第5次配布で終了しました。お寄せいただいた寄付金は約2,400万円(集計中)にのぼり、寄贈要望のあった336施設に18,450冊の本を贈ることができました。本当にありがとうございました。現在会員登録数777人さま。次号は3月21日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 18

《3》 サイト紹介 -子どもの本をリサーチする-

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 第28回ニッサン童話と絵本のグランプリ 受賞作品原画の展示

1. 日 時：(1)平成24年3月6日(火)～11日(日)

(2)平成24年3月6日(火)～29日(木)

*ただし、図書館の開館日時

2. 場 所：(1)大阪府立中央図書館 エントランス

(2)大阪府立中央図書館 国際児童文学館 展示コーナー

3. 入場料：無料

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『雨上がりのメデジン』 アルフレッド・ゴメス＝セルダ/作 宇野和美/訳

鈴木出版 2011年12月 対象年齢：小学校中学年以上

あらすじ:コロンビアのメデジン市の山の中腹のスラム地区に住むカミーロとアンドレスは、学校に行かず、毎日町をうろついている。二人は町に新しく出来た図書館に行き、カミーロは父親のお酒を買うために本を盗む。センサーが作動しなかったのは、司書のマールさんが操作していたからだとわかったのは三度目に盗んだ時だった。カミーロは三冊目の本を売らないが、そのために家に帰れなくなり、二人は一緒に外で夜を過ごす。

Y: この作品は、「この地球を生きる子どもたち」というシリーズの一冊です。このシリーズは、これまでもさまざまな国や地域の子どもたちを紹介しており、注目していました。

O: コロンビアのスラムという、多くの日本の子どもの生活とはかけ離れた生活をしている子どもたちが描かれています。盗むことに罪悪感を抱かず、将来、立派な泥棒になることを夢見るカミーロにリアリティを感じました。

Y: そんなカミーロといつも一緒にいるアンドレス。彼は父親のような泥棒にだけはなりたくないと思っています。けれどもカミーロが何をしていても変わらぬ友情でいつも寄り添います。家族よりも誰よりもお互いを信頼し、強い絆で結びついている様子が伝わってきました。

O: 結末で図書館員が盗むならこの本をといっただけカミーロに本を手渡して、カミーロが本をお酒に変えることをせず、自ら読み始めるあたりは、樂觀過ぎる感じもありましたが…

Y: カミーロは盗んできたレンガの壁を隠すために、雨が降るたびに壁に泥を塗らなければなりません。アンドレスと一緒に泥を塗って女の子のように肌がすべすべになって、女の子にならないかと心配するというエピソードなど、ユーモラスな部分も楽しかったです。

O: 原題は『メデジンのどろ』ですが、『どろにまみれたメデジン』と訳すこともできると思います。私にとってはこちらの方がぴったりくるように感じました。とはいえ、カミーロがメデジンは世界一の場所だと愛着を示す場面など、説得力のある描写が数多く、スペイン人の作家がコロンビアの情勢をしっかりと取材して書いた力作だと思いました。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 18

「その5 絵本の選び方(10) 絵本を評価する:ジャンル d. ナンセンス絵本」

ナンセンス絵本とは、「<センス=意味>がない」という意味ではなく、常識の枠を超えた考えで成り立っている絵本のことを指します。

つまり、現実とのズレの中にこそおかしさが潜んでおり、ズレによって私たちは「あたりまえ」だと思っていることが必ずしもあたりまえではないということに気づかされ、おかしさと同時に、社会の矛盾や自己の視野の狭さにドキッとします。

日本のナンセンス絵本作家といえばやはり、長新太、佐々木マキ、井上洋介

でしょう。

長新太の『キャベツくん』（文研出版、1980年9月）は「ブタヤマさん」と「キャベツくん」という思いもつかない登場人物が会って、いきなり、ブタヤマさんが「キャベツ、おまえをたべる！」と言います。そんなブタヤマさんを「ブキャ！」と言わせるキャベツくんの返答は、ブタヤマさんの変身を示唆します。ここには、「食べる」ことの意味、アイデンティティの問題が関わっていますが、空に浮かぶ大胆な絵で表現されたキャベツくんの奇想天外な発想が繰り返し披露されるため、笑いにつながります。

一方、佐々木マキの『ムッシュ・ムニエルとおつきさま』（絵本館、2001年10月）に描かれる世界は、ヤギと人間が共存し、魔法が存在します。洗練された線で描かれた整然とした都会の風景が私たちの世界とのズレを感じさせます。ムッシュ・ムニエルはその世界で月を落として人間に取られたり、月を大量に空に浮かべたり、失敗を繰り返し、読者はおかしいながらも、共感します。

そして、井上洋介の『でんしゃえほん』（ビリケン出版、2000年1月）には、ページをめくると「見立て」によるおもしろさがあります。ドーナツ型の電車、電線の上を走る電車など、あり得ない思いながらも、あつたらいいなと思うことで楽しく、電車は決まった形をして決まった所を走るものという常識を崩される楽しさがあります。

子どもに絵本を選ぶとき、子どもから笑いが起こる絵本は読み手にとっても聞き手にとっても心地よい経験ですが、排泄物が出てくるから笑う、ダジャレのみで笑うという絵本ではなく、あえて笑いの質を問いたいと思います。

*次号では「その5 絵本の選び方(10) 絵本を評価する：ジャンル e. 動物の擬人化」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。(Y)

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

資料所在データベース 18 回目。今回ご紹介するのは以下のサイトです。

●少女雑誌コレクション（菊陽町図書館）

http://www.kikuyo-lib.jp/hp/08_menu.htm

近年、さまざまな分野の研究者が少女雑誌に関心を向けています。これは現在、〈少女〉やティーンエイジ、あるいは若者文化についての研究がさかんになり、こうした研究を進めるための資料として、少女雑誌へのアクセスが増加しているものと思われます。

しかし、古い少女雑誌は、なかなか一次資料にあたるのが困難です。例えば、我が国の少女小説のパイオニア・吉屋信子の『花物語』は、『少女画報』『少女の友』などに掲載されましたが、いずれも復刻版はおろか、総目次さえありません。

熊本県にある菊陽町図書館の少女雑誌コレクションは、この分野の資料を埋

めるものとして貴重です。少女雑誌に限定されたコレクションは、約 5000 冊（タイトル数 123 誌、関連書含む）にも及びます。大正期を代表する『少女の友』は、378 冊（全部で約 600 冊刊行）を所蔵。初めて〈少女〉という言葉で冠した雑誌『少女界』は 45 冊（同約 130 冊）、『少女画報』83 冊（同約 370 冊）、戦後の『女学生の友』も 284 冊（同約 330 冊）を所蔵しています。

熱心な収集家による寄贈がコレクションのベース。本欄でこれまでにご紹介したさまざまなサイトと組み合わせることで、特に少女系については必要な資料を見つけることができるのではないのでしょうか。

なお、閲覧には事前連絡が必要で、複写や撮影はできないようです。詳しくはサイトをご確認ください。（J）

※次号は、資料所在データベース篇〈その 19〉の予定です。

《4》 行って来ました！

和歌山県立近代美術館で開催されている企画展「ホックニーのグリム童話」に行ってきました。デイヴィッド・ホックニー（1937 年ー）は、イギリス出身の画家で、油彩画、版画、写真、オペラの舞台デザインなど幅広いジャンルで活躍しており、「世界に対する鋭い洞察を親しみやすい表現で作品にする」と評されています。今回の展示は、同館のホックニーコレクションである初期の代表作から 1980 年代までの版画作品約 100 点が展示されています。

その中でグリム童話に関する展示は 6 冊の挿絵本と 39 点の別刷。「あめふらし」「めっけ鳥」「野ぢしゃ」「こわがることをおぼえるために旅にでかけた男の話」「リンクランクじいさん」「がたがたの竹馬こぞう」の 6 作でホックニーが全てのグリム童話を読んで選んだそうです。なぜ、この 6 作？と考えながら作品を見ました。

どの作品も魅力的でしたが、例えば、「あめふらし」の中の「たまごの中にかくれた若者」（1969 年、エッチング・アクアチント・ドライポイント、紙）は、灰色で斑点のある卵の中に、ひざをかかえて、一点を見つめている若者の姿が線で表現されています。これは、王女様に見つからないように隠れている場面ですが、現代の若者にも通じる描写で、グリム童話の現代における意味を考えさせられます。他の版画作品には、ホックニーらしい独特の色使いや、多様な視点からの画面構成が見られましたが、グリム童話はモノクロで二次元的な世界が繰り広げられていたため、昔話らしさを感じることができました。

グリム童話以外では、カラフルで鋭い線や柔らかい線が交じり合った『ブルー・ギター』や、10 回以上刷って、破って、コラージュして、さらに刷るという手法で、ピカソとの関連も思わせる『グレゴリーのイメージ』などに興味をひかれました。

今回の展示は 1980 年代までの作品でしたが、ホックニーは今も iPad などでは絵を描いているそうです。他の作品が日本で展示されるときにも、ぜひ行ってみたいと思いました。（K）

【3】全国のイベント紹介

● 自然と本のコラボレーション

「森とともにだちになろう！～森の絵本づくり～」

貝塚市にある自然いっぱいの少年自然の家で、森の不思議を発見しよう！
見つけたことをおはなしにして絵本をつくろう！それは、世界でたったひとつの絵本、素晴らしい宝物となるでしょう。

月 日：平成24年3月10日（土）～11日（日） 1泊2日

対 象：幼稚園年長～小学生を含む家族、小学生以上は子どもだけの参加可

定 員：10家族または子ども30人まで

申込締切：定員になり次第締切

参加費：有料

主 催：大阪府立少年自然の家

協 力：大阪府立中央図書館 / 財団法人 大阪国際児童文学館

● 絵本作家 谷口智則さん絵本原画展

期 間：平成24年3月17日（土）～31日（土）

場 所：和泉市立人権文化センター（ゆう・ゆうプラザ内）

※ 谷口智則さんのライブペインティング

日 時：平成24年3月31日（土）午後1時～3時

場 所：和泉市立人権文化センター（ゆう・ゆうプラザ）1階大会議室

定 員：200人

申 込：3月8日（木）午前10時から受付（申込先着順）

主 催：和泉市立人権文化センター 図書室（にじのとしょかん）

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「YO!この本読んだ?」で紹介しました『雨上がりのメデジン』を1名の方にプレゼントします。

ご希望の方は、メールで 件名「IICLO MAGAZINE NO.18プレゼント希望」とし、

(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス (5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は3月12日(月)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

被災地の子どもたちを少しでも笑顔に、そんな思いで関係団体とともに、本を贈る『いっしょだよ』キャンペーンに取り組みさせていただきました。贈り先からお礼の手紙とともに届いた写真、本を手にした子どもたちの屈託のない笑顔に、未来への“希望”を感じています。被災地の復興への道程は、まだまだ遠いと思いますが、春はもうそこまで来ているのでしょうか…。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまで
お願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：財団法人 大阪国際児童文学館 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

新春2012年。早いもので松の内も過ぎましたが、いかがお過ごしでしょうか？
本年が皆様にとって、笑顔の絶えない素晴らしい一年になりますように、
スタッフ一同、心よりお祈り申し上げます。現在会員登録数764人さま。
ご愛読ありがとうございます。次号は2月21日発行の予定です！

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 17

《3》 サイト紹介 -子どもの本をリサーチする-

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 「ニッサン童話と絵本のグランプリ」受賞作品が出版されました
当財団主催、「第27回ニッサン童話と絵本のグランプリ」(平成22年度実施)
の受賞2作品が、BL出版より出版されました。

『あやとユキ』いながき ふさこ/作 童話部門優秀賞一席作品

青井 芳美/絵 (第3回絵本部門大賞受賞者)

『うみのそこのてんし』松宮 敬治/作 絵本部門大賞作品

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『怪物はささやく』 パトリック・ネス/著 シヴォーン・ダウド/原案
池田真紀子/訳 ジム・ケイ/絵 あすなる書房 2011年11月

対象年齢：中学生以上

あらすじ：母親が癌で入院したため、13歳のコーナーはあまり気の合わない

祖母と住むことになる。彼は毎夜悪夢に脅かされ、その夢のために罪の意識を感じていたが、ある夜、窓から見えるイチイの木の怪物がやって来る。怪物はコナーに3つの物語を聞かせる代わりに、最後にはコナーが物語を聞かせなければならないと言う。学校では級友から距離を置かれ、母親とは病気について率直に語れない少年の苦しみを描かれる。

Y：まず、装丁・装画に惹かれました。モノクロの絵でコナーの不安感、イチイの木の存在感が描かれています。

O：巨木が怪物として歩いてやってくる怖さを強化する役割ですね。イチイの木は、時には薬になり、時には破壊者となる一面的でない描き方がされていて、コナーとの対決場面が読ませました。

Y：コナーはイチイの木の第二の物語を聞いた後、祖母の家の中を破壊し、第三の物語を聞いた後、コナーをいじめ続けていたハリーを殴り倒します。物語を聞くことでハリーの気持ちがむき出しになってくるという物語の使われ方も興味深いと思いました。

O：この作品では「物語」の人間に及ぼす力が強調されていて、三つの物語は、私には、理性的で頭で整理されているように感じました。二人の作家が関わっていることと関係しているのかもしれませんが。逃げ腰の父親、頭脳明晰でビジネスライクに物事処理する祖母、いじめっこのハリー、幼馴染のリリー、校長など、コナーの周りの登場人物も整然と配置されています。

Y：母親の死を予感したコナーが「終わって欲しい」と思ったことに罪悪感を抱き、そこから逃れられないで苦しむ様子がイチイの木との対話の中で突き詰められていきます。

O：まわりのひとたちが、事実を知って触れないようにすることで、空気の壁ができ、コナーがより孤立していく過程は、このような状況下で表面的に示される「やさしさ」がいかに残酷かを暴いていて、迫力がありません。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 17

「その5 絵本の選び方(10) 絵本を評価する：ジャンル c. 日常を描いた絵本」

子どもの日常を描いた絵本は、あたりまえのこととして過ごしている日常について客観的に見つめる機会を提供します。「自分も同じような体験をしたな」「同じように感じたな」と思うことで、自らの経験を視覚イメージや言葉で再確認するのです。

このジャンルで重要なことは、作品が「子どもの視点で描かれているか」ということです。絵本は基本的に大人の作家が書くため、ついつい、大人の視点から子どもを描いてしまいがちです。絵について言えば、子どもの視点を理解した構図になっているということが重要です。背が低いために、視線が低くなるだけでなく、子どもは大人にとっては重要ではないと思われるよ

うなものにも気づいてじっと見つめたり、さわったりする傾向にあります。

言葉について言えば、子どもの思考に添って描かれているかということが重要です。大人であれば、経験した出来事をすぐに抽象的な概念にあてはめて理解することが可能ですが、子どもにとっては、世の中は謎だらけで、いろいろなことを一つ一つ試しながら人や社会を理解していきます。

一方で、大人も子どもも感情を持った人間であるという点では共通しています。一見、大人にはいつも元気で明るいと思われる子どもでも、不安や悲しみ、怒りなどを抱えて毎日を過ごしています。日常を描いた絵本の中ではそのことを含めて子どもをとらえる必要があると考えます。このような作品例としては『わたしとあそんで』（マリ－ホール・エッツ/文・絵 よだじゅんいち/訳 福音館書店 1968年8月）が挙げられます。

また、子どもたちが自分の生活と比べるジャンルであるからこそ、家族観や男女観のステレオタイプに気がつけたいものです。さまざまな生き方を許容する作品であるかどうかを評価の観点として持っておきたいと思います。

*次号では「その5 絵本の選び方(10) 絵本を評価する：ジャンルd.ナンセンス絵本」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思います。(Y)

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

資料所在データベース 17 回目。今回は〈番外編〉その2です。

●ほんナビきっず（富士通東北システムズ、財団法人大阪国際児童文学館）

<http://www.honnavi.jp/honnavi/navi/topmenu2.jsp>

「本の海大冒険」（前回紹介）に続き、子ども向き〈本探しサイト〉として開発されたのが「ほんナビきっず」です。

「本の海」のゲーム検索は子どもたちに大変人気ですが、システム上、本を探すバリエーションが増やしにくく、拡張しづらい点が課題でした。また、子どもたちの読書ニーズを捉えるという点で、さらにインタラクティブ（双方向性）なものにできないか、という思いがありました。

子どもにとってより望ましい検索システムはどうあるべきか、こうした課題に取り組むために、当財団では図書館システムを多く手がける富士通東北システムズと、この分野の研究では国内をリードする筑波大学との共同研究を実施。その成果として生まれたのがこのサイトです。

「ほんナビ」では、ともすれば固定的になりがちな検索方式について、選択できるキャラクターやアイテムなどの絵文字の数や、掛け合わせの数を多くし、複雑な条件検索を実現。精度の高い結果が抽出可能となりました。加えて、登載本には体系化された物語キーワードを付与。本も大幅に増やすことで、検索結果がより充実するようになりました。

インタラクティブという点では、本を読んだ感想を「うれしい・かなしい・こわい・びっくり」というカテゴリで投票できるシステムを採用。それらをシステム内に数値化して蓄積、感情で本探しができるという、国内初のシステムを構築しました（特許出願中）。

そして何よりも、サイトをナビゲートしてくれるキャベツくんとブタヤマさんが楽しい。絵本作家・長 新太さんのキャラ満載で、ファンならずとも一見の価値あり！ぜひ一度、お試しください。（J）
※次号は、資料所在データベース篇〈その18〉の予定です。

《4》 行って来ました！

宝塚市立手塚治虫記念館に行ってきました。阪急宝塚南口駅から北へ宝塚大橋を渡ると、「ガラスの地球」が載った建物が見えてきます。エントランスまで手塚マンガのキャラクターの足型をたどれば、自然に建物に誘い込まれる感じです。玄関ホールは券売機までが「リボンの騎士」の王宮風で、館内は床から天井まで全てが手塚治虫ワールドです。

1階には、たくさん並んだカプセル型の展示ケースに手塚治虫の原稿や本、写真などの常設展示があります。地階にあるアニメーション制作が体験できる「アニメ工房」、2階にある手塚作品の検索やゲームで遊ぶことができる「情報・アニメ検索機」、自由に本が読めるライブラリーなど、大人も子どもも時間を忘れて楽しめそうです。

企画展示は「萬画（マンガ）～石ノ森章太郎の世界～」です。高校2年の石ノ森が手塚のアシスタントとなった経緯や、手塚に嫉妬されたエピソードなど、マンガ原稿やパネルで紹介されています。500巻770作品に及ぶ石ノ森の作品数はギネス記録に認定されているようで、展示されていた全集だけでもすごい数でした。「がんばれロボコン」や「さるとびエッチちゃん」など、私が知っている作品が多く紹介されていて懐かしさをおぼえました。

また、宮城県石巻市にある石ノ森萬画館は東日本大震災で津波に遭い、今は休館中ですが、再開に向けて頑張っている状況報告のパネルがありました。帰りは、国際児童文学館が2008年に手塚治虫文化賞をいただいたことを思い出しながら、「花のみち」を宝塚駅に向かいました。（K）

【3】全国のイベント紹介

●小展示「ニッサン童話と絵本のグランプリ」受賞作品出版記念 絵本原画展
会 場：大阪府立中央図書館 国際児童文学館
期 間：開催中 ～3月初旬
内 容：「第27回ニッサン童話と絵本のグランプリ」出版2作品の原画12点
主 催：当財団

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「YO!この本読んだ?」で紹介しました『怪物はささやく』を1名の方にプレゼントします。

ご希望の方は、メールで 件名「IICLO MAGAZINE NO.17プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス (5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は2月10日(金)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

お正月、4年ぶりに行った北海道のスキー場。以前はオーストラリアの人が多かったのですが、中国人客が大幅に増えているように感じました。雪が舞う露天の湯に浸かりながら、つらつら考えるのは、英語ダメ、中国語ダメの私は、やっぱり国際化に取り残されている・・・大阪“国際”児童文学館勤務なのに。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：財団法人 大阪国際児童文学館 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
